

1年保健体育 (MYP 2 Physical & health education) 【保健体育：3単位】

科目のねらい

MYP保健体育の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・探究学習を通して、保健体育の概念を研究する。
- ・様々な場面に効果的に参加する。
- ・身体活動（運動）の価値を理解する。
- ・健康的な生活（ライフスタイル）を維持する。
- ・効果的に他人と協力したり、コミュニケーションをとったりする。
- ・他人と建設的・肯定的な関係を構築し、社会的責任を示す。
- ・自身の学習経験を振り返る。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：知識と理解	i. 「保健体育」に関する、事実的、手続的、概念的知識を詳しく述べることができる。
	ii. なじみのある、あるいはなじみのない状況において設定された問題を説明し、解決するために、「保健体育」に関する知識を応用することができる。
	iii. 理解を伝えるために、「保健体育」の専門用語を効果的に応用することができる。
B：パフォーマンスの計画	i. パフォーマンスの改善に向けた目標を簡単に述べることができる。
	ii. 身体能力と健康を改善するための計画を設計し、説明することができる。
C：応用と実践	i. 幅広いスキルや技術を示し、応用することができる。
	ii. 幅広い戦略や動きの概念を示し、応用することができる。
	iii. 効果的なパフォーマンスに必要な情報を簡単に述べ、応用することができる。
D：パフォーマンスの振り返りと改善	i. 対人スキルを強化するための戦略を詳しく述べ、示すことができる。
	ii. 計画の有効性を、その成果に基づき説明することができる。
	iii. パフォーマンスを説明し、評価することができる。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Mathematics guide」に基づいています。

関連概念（保健体育の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

適応	選択	バランス	エネルギー
環境	機能	相互作用	運動
ものの見方	改良	空間	システム

※目標と評価規準はMYP保健体育3のものを使用する。

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. Development(変化) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関係性) 3. コミュニケーションスキル、批判的思考スキル、振り返りスキル	A. 体づくりの運動 (ア. 体ほぐしの運動・イ. 体力を高める運動) ラジオ体操ではグループで体操の目的を理解し実践する。新体カテストは方法を理解し計測する。	評価規準B(個人) ラジオ体操の動画を分析し動作をレポートにまとめる。(グループ) 学習計画を立て、進捗や活動を分析・評価する。他のグループの成果を観察評価を行い反省する。 評価規準C(個人) 実技試験としてグループごとに体操を行いVTR撮影によって行い、他者評価を行う。 評価規準D(個人) 学習の振り返りをレポートにまとめる。 【B】 【C】 【D】	1. ①知識・技能 -C ②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D 2. C-15

	2	1. Change(変化) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル・批判的思考スキル	C. 陸上競技 (ア. 短距離走) ※雨天時は走り高跳び	評価規準 A(個人) 短距離走のルールや行い方、講師からの学びをレポートにまとめる。タイム測定と VTR 撮影を実施し試技と本番の比較をする。 評価規準 D(グループ) 短距離走ルールや行い方を知る。互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。 【A】【D】	1. ①知識・技能 -A ③思考・判断・表現-D 2. A-3
	3	1. Development(発展) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 協働スキル、リサーチスキル、整理整頓スキル	E. 球技 (ア. サッカー) 実施種目: フットサル	評価基準 B 個人の課題を発見し、改善に向けた練習の計画を立て実践する。 評価規準 C ボールコントロールを身につけ、それを活かした簡易ゲームを行う。実技試験を行う。 【B】【C】	1. ①知識・技能 -C ②学びに向かう力-B 2. C-10
	4	1. Relationships(関係) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わりあい) 3. コミュニケーションスキル、協働スキル、振り返りスキル、批判的思考スキル	E. 球技 (ウ. ソフトボール)	評価規準 B(グループ) チームや個人の課題を発見し、改善に向けた練習計画を立てて実践する。進度や活動を分析・評価する。 評価規準 D 互いの活動を評価し、学習の振り返りをレポートにまとめる。他のグループの成果についても観察評価し、レポートにまとめる。 【B】【D】	1. ②学びに向かう力-B ③思考・判断・表現-D 2. C-11
後期 (10月)3	5	1. Relationships(関係) 2. Identities and relationships (アイデンティティと関わり合い) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル	F. 武道 (ア. 柔道)	評価規準 A(個人) 柔道の行い方、礼法や他者へのマナーを身につける。 評価規準 C(個人・2人組み) 自己や相手の身を守る方法を知り、実践する。受け身、固め技、立ち技の実技試験を行う。 【A】【C】	1. ①知識・技能 -A, C 2. B-7
	6	1. Development(発展) 2. Personal and culture expression (個人的・文化的表現) 3. コミュニケーションスキル・協働スキル・創造的思考スキル	G. ダンス (ウ. 現代的なリズムのダンス) 実施種目: ヒップホップダンス	評価規準 A ヒップホップの歴史やステップをレポートにまとめる。 評価規準 B(グループ) 学習計画を立て、進度や活動を分析・評価する 【A】【B】	1. ①知識・技能 -A ②学びに向かう力-B 2. B-9
	Unit 外	1. Change(変化) 2. Orientation in space and time (空間と時間) 3. 振り返りスキル	B. 器械運動 (ア. マット) ※(ウ. 平均台は時数に余裕がある場合のみ行う)		2. B-6
通年	7	1. Communication(伝達) 2. Scientific and technical innovation (科学的・技術的革新) 3. 協働スキル・振り返りスキル・情報リテラシースキル・メディアリテラシー・批判的思考スキル・創造的思考スキル・転移スキル	H. 保健・体育理論	評価規準 A(個人・グループ) 運動やスポーツの行い方の知識を学び理解する 評価規準 A(個人・グループ) 心身の機能の発達と心の健康を自分と他者のこととしてとらえ、思考し、理解を深める。 評価規準 D 何を学んだか、またその学びを今後の生活にどう活かすかを考え、文章にまとめる。 【A】【D】	1. ①知識・技能 -A ③思考・判断・表現-D 2. B-8